

喜田議員 皆さん、おはようございます。新型コロナウイルスにおきましては、感染力が非常に強いとされるオミクロン株という新たな変異株が出現し、第6波も懸念しているところです。今のところ、全国的に感染者数の減少が続いており、徳島県におきましても、約1か月ほど感染者数ゼロの日が続いています。経済の回復に向けた対策が急がれるところです。本町におきましても、今後も感染拡大に注意を受けながら、一刻も早く町内の経済回復に向け取り組みを進めていかなければなりません。今後も町長をはじめ職員の皆様の引き続きご尽力を賜りますことをお願い申し上げ、質問に移らせていただきます。それでは、事前に通告していましたが、次の2点についてご質問させていただきます。まず最初に、「看護師や介護士への支援を」についてお伺いします。新型コロナウイルス感染症が世の中に出現し、2年余りとなりました。感染の波、第5波の時には、一日の感染者数が全国で2万6千人を上回る日もあり、これまでに経験したことのない感染拡大とも言われました。現在は、感染者数も減少し、落ち着きを見せていますが、今後、第6波も警戒しなければなりません。そんなコロナ禍の中、最前線で活躍をされてきました医療従事者における、看護師、また、介護士の皆さんが支援を求めておられます。看護師におきましては、牟岐町民も勤める海部病院勤務におきまして、人手不足による労働負担が多くなり疲労が増加するという声が多く聞かれます。徳島県管轄の病院ではありますが、新規採用が行われても、海部病院へは、なかなか若い看護師の配属がなく、現在の限られた人員の中での就労に限界を感じている看護師もいると言われています。このような状況におきまして、海部病院は県立ですので、運営などについては県が行いますが、本町からの就労者も少なくはなく、このような情勢に鑑みて、今後若い看護師の海部病院への積極的な配属を県への申し入れとし、要望を行うことも必要かと考えますが、このことについて、ご見解をお聞かせください。また、牟岐町で働く若い世代の医師や看護師をはじめ、子育て世代の方々などが、本町での生活を行う上で、育児中の子どもの急な発熱や警報などが発令された時の子どもを預かれるような、支援体制づくりなども、今後、検討する必要性を感じます。そして、介護士におきましては、牟岐町内にも官民の両施設がありますが、この中でも3町が運営を行う海部老人ホームにおきましては、夜勤や宿直勤務があるため、若い人からの就労が敬遠されがちで、介護従事者の年齢が少しずつ上がってきているとお聞きします。そのため、こちらの現場も、人手不足が深刻化し、高齢者の介護における、レクリエーションや外出時の付き添いができない等、様々なことに影響を及ぼしているようです。また、職員が体調を崩した時には、職員同士の協力体制で職務を遂行しているようですが、これらもまた、大きな負担となっているようです。そして、新型コロナウイルスやノロウイルスの感染症な

どの発症した場合には、人手不足による感染拡大対策や対応の鈍化も懸念されているようです。今後は、子育て中の看護師への夜勤や宿直についての優遇措置を考え、若い人に就労を促し、募集を行うことも必要ではないかと考えますが、これらのことについて、ご見解をお聞かせください。次に、「困窮する学生に支援を」についてお伺いします。第2次岸田内閣が発足し、政府は、新型コロナウイルス経済対策として、18歳以下の子どもに10万円相当の給付を行う方針が固められています。子育て世代の方にとっては大変歓迎される対策となりますが、困っているのは、学生や学生を持つ世帯も同じです。コロナ禍によるアルバイトの収入の激減や、親元の困窮による仕送りの減額など、学生生活を送る上で、2年余りも厳しい状態におかれている学生も少なくないようです。昨年度は、コロナ対策とし、地方創生臨時交付金事業により、牟岐町出身学生等応援給付金が、学生の修学環境を維持するために、1人につき10万円の補助が行われました。その他にも、学生応援プロジェクトとして、牟岐町出身の学生に徳島県内の物産や、牟岐町内の特産物の送付が行われました。給付や送付を受けた学生からは、大変喜ばれたことと認識しています。今回、政府からの支援策には、一部例外はあるようですが、学生は対象とはならないようで、これからも大変厳しい状況におかれる学生も少なくはありません。この牟岐町で育ち、巣立っていった学生たちが、立派な社会人へと成長をし、また、いつかふるさと牟岐町へ元気な姿で帰って来られることを願い、再度、学生たちへの給付金などの支援をできないものか、ご検討いただきたいと思いますが、これにつきまして、どのようにお考えかお聞かせください。よろしくお願ひします。

一山議長 枳富町長。

(枳富町長 登壇)

枳富町長 おはようございます。喜田議員の「看護師・介護士への支援を」につきまして、ご答弁させていただきむさ。看護や介護を担う職場では、平常時におきましても慢性的な人員不足や長時間勤務等々、大変な状況であることと思います。ましてコロナ禍における状況下ではひっ迫した状況も想定されることから十分な体制の整備が必要と認識しています。県立海部病院は地域医療の中核をなす重要な機関であることから、これからも「地域医療を守る会」とも連携を深めながら、人員の配置はもとより医療の充実をこれまでどおり徳島県に対して要望していきたいと思ひます。育児中の医療従事者の緊急時における子どもの託児につきましては、都市部では入院施設を持つ医療機関が

担っている状況であります。子供を預かることは責任も伴いますし、発熱等の状況にある子供を預かる「病児保育」は医療職でないと難しいと考えます。保育園以外に子供を預かってくれるというふうなサポートがない保護者の方々には、保育園入園時に牟岐町ファミリーサポートセンターのパンフレットをお渡しし、相談に乗ってもらうことをお勧めしており、現在8名の方が登録されていると伺っています。海部老人ホームについては中長期的な観点から人員採用や労働条件等々について、海部郡町村会、また、海部老人ホーム町村組合等におきまして、検討していきたいと考えています。子育て中の看護師の夜勤や宿直等の労働条件につきましては、県立病院の人事に関することにつきましては、町から言える立場にありません。ご理解いただきたいと思います。牟岐町のことに关しましては、保育園の保育時間の改善も含めて総合的に検討していきたいと思ひます。次に、「困窮する学生に支援を」のご質問についてですが、牟岐町では、令和2年度に牟岐町出身学生等応援給付金として、ふるさと牟岐町を離れ、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けている牟岐町出身学生に、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業費を活用し、一人あたり10万円の給付金を行い、69名の学生が給付金を受給しています。また、「学生応援プロジェクト」として、牟岐町出身学生や関係人口大学生112名に地元の物産品を贈り、ふるさと牟岐を思い出し、元気になっていただけるよう事業を実施しました。本年度につきましては、出身学生等応援給付金事業は実施していませんが、「もっと学生応援パック事業」として、牟岐町出身学生や関係人口大学生の方々に地元の特産品を贈り、コロナ禍で生活に影響を受けている学生の方々へ、エールを送ったところです。「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」について、新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中、厳しい状況にある学生等の学びを継続するための緊急給付金や、子育て世帯への臨時特別給付金、住民税非課税世帯に対する給付金等が令和3年11月19日、閣議決定されました。しかしながら、現在のところ、給付方法等につきましては、国の制度確定がなされていない状況です。牟岐町としましては、牟岐町出身大学生に対する支援方法につきまして、今後も国の制度の動向を見つつ、検討していきたいと考えています。以上です。よろしくお願ひします。

一山議長 喜田議員。

喜田議員 ご答弁いただき、ありがとうございます。看護師や介護士への支援におきま

しては、只今、町長からご答弁をいただきましたが、本町の問題だけではなく、徳島県のことですので、対応は厳しいのは、本当に理解ができます。コロナ禍の中、最も緊張感をもって医療や介護に従事をされている方々は、今後も大変な状況下にあることを認識し、支援体制の強化、見直しを促していくことも必要かと思います。また、町単位でも可能なことは支援、体制作りを今後もできましたらお願いしたいと思います。そして、学生への支援につきましては、本当、厳しい町財政の中、町単位での支援は、かなり難しいかも知れませんが、今後、何らかの形で学生支援が行われることをご期待しまして、私からの質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。